

簡単な御紹介

塩谷 清人

簡単に松島先生のご学歴とご業績をご紹介したいと思います。松島先生は、中島主任からのご紹介にもありましたけれども、1942年に葛飾区の柴又ではないですけども、その隣に金町というところがありまして、そこでお生まれになりました。地元の小中学校から両国高校に進まれて、1961年に東大に入学、文学部の英文科、大学院と進まれまして、修士課程、本学では、前期課程とも言いますけど、修士課程を修了後に1968年に国学院大学文学部専任講師として就職されました。その後17年間国学院

で、それから 1985 年 43 歳のお歳の時に学習院の文学部英米文学科に移ってこれ、現在に至っておられます。学習院では 27 年間という在籍期間になりまして、トータルでは 44 年になるかと思います。それで今、中島先生のお話にもありましたけれども、中央とか明治とか法政とか他所の学部や大学院でも非常勤もされて、多分ここにいらっしゃる方々の中にもそのように他の大学で先生の薫陶を受けられた人もいらっしゃると思います。それから学会活動はすでに中島先生のご紹介にありましたが、特にイギリス・ロマン派学会会長としてのご貢献は繰り返しておきたいと思います。ご専門はほぼ半世紀近くにわたり研究を続けられたウィリアム・ブレイクということになります。ウィリアム・ブレイクはロマン派の先駆けになったイギリスの大詩人でありまして、18 世紀後半から 19 世紀前半にかけての詩人でありました。業績の中心も当然ブレイクということになります。42 歳の時に『孤高の芸術家ウィリアム・ブレイク』という大著を出されまして、これは当時かなり話題になった本であります。現在非常に盛んなブレイク研究の先鞭をつけた本となっております。その後のご研鑽によりまして現在、ブレイク研究の第一人者とされておりまして。それから先生は若い頃から少し小説など創作もされたように伺っておりますけれども、文学だけではなくて様々な文化についての興味がおありでして、そのようなことから民藝の柳宗悦のことも書いておられましたし、日本の文学については大江健三郎から飯島耕一、天沢退二郎など詩人のことも書いて、非常に深い造詣を活かされておりまして。それから本としては『イギリス・ロマン主義事典』という大著を先生お一人で作成されて出版されました。これもご偉業の一つです。その他に、10 冊ばかりの本とそれからいくつかの翻訳、それから論文は数え切れないと言うと失礼かもしれませんが、非常に沢山あります。一番皆さんご存知かもしれないのが岩波文庫から対訳の『ブレイク詩集』という本を出されております。これは皆様も御存じでしょう。

先ほどの中島主任のお話にもありましたように、地方でも集中講義をなさり、それから度々講演を依頼されてやっておりますので、そういうことから今日の最終講義というのはそれらのエッセンスを凝縮したようなものに多分なるとは思いますが、私から一つお願いは、ブレイクという詩人は非常に難解な詩人なので、今日は少し分かりやすい講義をして頂けると大変ありがたいと思うのですが。それではこの辺でご紹介を終わりますが、先生よろしくお願ひします。

(英語英米文化学科教授)